

第5回川口市行政評価外部評価委員会			
日 時	令和5年3月10日(金) 13:30~14:30	場 所	第一本庁舎 601 大会議室
評価委員	石川委員長、高田委員、高德委員、田中委員、富田委員、原委員、吉村委員、城守委員、稲垣委員	傍聴者数	0名
事務局	小西企画財政部長 企画経営課：稲垣次長、竹田課長補佐、山縣主査、菅原主査、佐藤主任、光谷主事		

(1) 令和4年度外部評価結果に対する事業担当課の対応方針について

○資料1「令和4年度川口市行政評価外部評価委員会からの評価に対する対応方針について」各課長から説明

<質問・意見>

- ・ 城守委員
 - 「ふるさと寄附金事業」について、資料に記載されている以上のことを実施しており非常に心強く思う。以前もお聞きしたが、ふるさと寄附金事業は本当に税制課の仕事なのか。
 - ◇ この事業のスタート時に、市民からの問い合わせが最も多いのは、寄付金の税額控除に関するものではないかと考えたことから、税制課で担当することになった。しかし、事業の関連性も踏まえ、市製品の選定や経済団体等との繋がりについては、常に経済部と連携を取りながら進めているところである。市製品のPRについては、ふるさと納税のポータルサイトへ委託することを広報媒体と考えると、税制課で行っても特段問題はないと思っている。
 - 私個人としては一つの課ではなくて部局横断的に取り組んだ方が成果が出ると思うが、税制課で連携を取りながら実施しているのであれば、引き続き頑張ってください。
- ・ 高德委員
 - 「幼稚園費」について、以前と比べると危機感を感じ、積極的に取り組んでいる姿勢が伺えるが、在り方検討委員会で出た具体的な内容について教えて欲しい。
 - ◇ 在り方検討委員会を2回開催し、課題の共有や検討事項の整理、今後の幼稚園の在り方や方向性のパターンを検討した。例えば2園を統合してどちらかの幼稚園1園にする考え方や、2園を統合して一つにした後、将来的にはどうしていくのか、または2園とも最終的に閉園にしていくなど、いろいろな方向性の意見が出てきているところであり、具体的な内容については第3回以降の会議で検討していく予定である。

(2) 令和2・3年度外部評価事業に対する事業の方向性について

○資料2・3「令和2・3年度外部評価事業の方向性について」事務局から説明

<質問・意見>

- ・ 城守委員
 - 今回初めてこのような資料を作っていただき、過去の事業について把握することが出来た。ありがとうございました。委員会での意見が何らかの役に立っているとの評価をいただけたので、良かったと思っている。ずっと続けていけば何か見えてくるはずである。

(3) 外部評価委員会へのご意見に対する回答及びアンケート結果について

○資料4「令和4年度川口市行政評価外部評価委員会に対するご意見及び回答」及び資料5「令和4年度川口市行政評価外部評価委員会アンケート結果」について事務局から説明

<質問・意見>

なし

<3年間を通しての意見・感想等>

- ・ 高田委員
 - お疲れさまでした。1年目は何が何だか分からず、こんな事業があるのかと感心することが多かった。素人ながらも素人の意見は大事だと感じ、2・3年目からは自分なりの意見を言うことが出来た。色々な人からの意見を聞くことは大事である。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。
- ・ 高德委員
 - 3年間お疲れさまでした。ありがとうございました。私も事業を評価することは初めての経験で、自分の仕事内容とは全く違う事業であったため、最初は戸惑うことが多かった。3年間勉強させていただき、自分自身の意見を言うことが出来た。企画経営課は他の部署から嫌われるかもしれないが、その裏では市民のためになっているという気持ちを持って今後も頑張りたい。ありがとうございました。
- ・ 田中委員
 - 委員の皆さま、事務局の皆さまありがとうございました。最初の方は事業によって分かる内容と全く分からない事業があったが、資料も段々分かりやすくなり、他の委員の意見を聞いて自分自身も勉強しながら、大変良い会議になったと思う。結果的にこの会議で検討したことが、行政の改善の1歩に繋がると思うと、本当に良かったと思う。そのような視点を持ちながら今後も行政を見ていきたいと思う。
- ・ 稲垣委員
 - お世話になりました。最初は説明していただいても資料のどこを見ていいのかわかりづらかったが、毎年事務局で修正していただき、とても分かりやすくなってきた。評価した事業の内容には子どもや孫に関係する事業もあったため、勉強になったし、自分なりに考えるようにもなった。また、今日のように過去の評価対象事業の経過を報告していただくと、どの様に改善されているのか理解しやすいため、今後も続けてほしい。これからも、広報かわぐち等で自分が関わった事業がどのように変わるのか注視していきたい。お世話になりました。
- ・ 城守委員
 - 3年間ありがとうございました。私からは2点申し上げたい。1点目は事務局に対してのお礼である。私は外部評価委員会の要は事務局であると思っている。委員に対してどれだけ分かりやすく事業を説明するかで、委員の理解度も変わってくる。事務局に対して色々お願いしたが、それに対して的確に答えてくれた。現在の事務局はよくやってくれたと思う。2点目は外部評価委員会において、課題の提示があって、委員の皆さんが意見を出して結論が出たことは、全体の進捗からするとまだ半分だと思う。その意見を無駄にしないようどのように生かしていくのか、そのことが非常に大事である。そういう意味ではこの3年間では、

その後ろ半分がなかなか見えてこなかった。今回初めて事務局で資料 2 を作成し、過去 2 年分の今後の方向性を知ることが出来たが、私としてはまだ不十分だと思う。今年度検討して、来年度予算に反映され、実際に実施するのは 2 年後で、その結果を見るのが 3 年後。委員会の後のフォローアップをもっと強化して、3 年後、5 年後もきちんと評価を行ってほしい。漫然と仕事をせずに、改革の意識を持って川口市民のために仕事をしていただきたい。これからも事務局の奮闘を期待している。

・ 吉村委員

- 市の今後の行政や評価の在り方について述べさせていただく。市の行政にとって最も重要なことは市民に選ぶ自由を与えることである。国の施策の中には、選択に必要な情報をあえて制限するようなものも見受けられる。市として、適切な情報公開、外部評価等を実施し、市民が自らの意思で適切に判断を下すことが出来るような行政を実現してほしい。

・ 原委員

- 皆さま、3 年間お疲れさまでした。持病があつてすべての会議に参加することが出来ず、ご迷惑をおかけした。私自身このような会議に参加させていただいて、改めて委員のみなさんがどのような活動をしているのか確認することができた。当たり前のように実施してきたことを見直して、改善していくことは必要なことだと思う。今後も引き続き、改善を行いながら、新たなものを取り入れ、川口市の皆さんが住みやすい環境を作っていただきたい。3 年間ありがとうございました。

・ 富田委員

- 私も勝手に違う業務について評価する難しさに最初、少し戸惑ったが、資料も分かりやすく作っていただいた。今日の資料 2 のように過去の事業のフィードバックについては、理想通りの形になっていた。市役所は組織が大きく、職員の人数や、予算額が大きいため、すぐに変化は出ないかもしれないが、3 年・5 年後に検証していただき、外部評価の結果と乖離しているような事業については、さらに一歩踏み込んでいかなければ変わっていかないと感じた。

・ 石川委員長

- 行政はやはり単年度の予算で動くということが予算的な裏付けの基本となっており、なかなか結果が出づらいということは確かにあると思う。しかし結果が出るが見えるということが大事で、そのことを市民に公表し、その反応を伺いながら、行政は動くことが必要だと思う。そういう意味では一方的に発信するばかりではなく、動きをきちんと捉えて、それをまた生かしていく相互の行動が必要となる。3 年間という限られた期間ではあるが、各委員の皆さんと委員会を共にすることができて、大変勉強になった。私からもお礼を申し上げたい。ありがとうございました。